

パチカンの主な動き（2014年）

1. 国内政治

- (1) 2014年11月、新外務長官としてギャラガー前駐豪州法王庁大使（英国人）を任命。これまで以上に能動的なパチカン外交の推進が期待される。
- (2) また、法王は、ペレ枢機卿を長官とする経済省(Secretariat for the Economy)を新たに設置する等、パチカン組織改革やパチカン銀行改革に引き続き積極的に取り組んでおり、これまで以上の成果が着実に出されることが期待される。

2. 対外政策

- (1) 法王フランシスコの世界的人気は陰りを見せず、国際メディアもその発言、行動を積極的に報道。かかる世界的評価を背景に法王庁はパチカン外交を積極的に展開。2014年12月には、米・キューバ外交関係正常化に向けた仲介外交が功を奏し、米及びキューバの双方から法王庁に謝意が表明されるなど、具体的な成果を達成。今後もかかるパチカンの調停外交が活発化されることが予想される。
- (2) アルゼンティン出身の法王フランシスコは、ヨーロッパだけではなくアジア、アフリカ、南米地域に対する関心も高い。アジアへの外遊では、2014年8月に韓国の青年祭出席及び2015年1月にスリランカ、フィリピンを訪問する等、大型の外遊を短期間に2回行った。

3. 我が国との関係

- (1) 2014年6月、安倍総理大臣は法王フランシスコに謁見し、国際情勢及び日本とキリスト教徒の関係等について意見交換した（日本国総理大臣の法王謁見は5年振り）。その後、パロリン国務長官と会談した。
- (2) 文化行事では、2013年に引き続きパチカン国際音楽祭に、西本智実氏の指揮の下イルミナートフィルハーモニーオーケストラ及び合唱団が参加した。